横浜市阿久和小学校
Akuwa elementary school in Yokohama city

# 学校だより

令和５年 12 月 22 日
校長　荒井　智津子

１月号

学校教育目標　「みんなかがやけあくわっ子」
～自分らしく輝く子の育成をめざして～　夢の実現に向かって行動する子
あいさつから輪を広げる子　くふうして学び続ける子　わたしもあなたも命を大切にする子

## 人権週間の取り組み

校長　荒井　智津子

１２月４日～１２月１０日の人権週間に、学校では次のような取り組みを行いました。
【朝会　校長講話　人権に関する作文紹介】
「令和４年度全国中学生人権作文コンテスト神奈川県大会」
最優秀賞　「ぼくはスカートを履いている」一部抜粋

ぼくは制服のスカートを履いている。テストの時、合唱祭、高校見学でも。『ぼく』という一人称もしっくりこないので、早速だが、『私』にする。
なぜスカートなのかというと、涼しいし、かわいいからだ。（略）いつからスカートを履くようになったかというと、小学五年生の時だ。（略）
私には女の子のお友達も多い。男子からは変な意味にとられたこともあったけど、べつに気にしない。発達障害もあってオープンにしているし、昔からいろんな反応を受けてきた。いちいち気にしていたら生きていけん。（略）
私が、みんなにスカートや障害のことをいってよかったと思うのは、理解してくれる人がいることだ。しかも結構な人数。最近は SDGs もあって、関わりを持とうとしている人も多くなり、言いやすくなっている。正直 SDGs の中で障害を扱うことは「遅くない？」と思ったが、障害というものを知らない人も多かったので、みんなで考えることができるのでよいきかいだ。（略）
私は障害を持つ身としてみんなと同じように接してほしい、特別扱いされたくない。スカートも特別ではない目で見てほしい。勇気をだして自分のことを話した人のことをたくさんの人に理解してほしい。（略）私の人生全ては、神様がくれたプレゼントだと思う。

【ふわふわの木に実をつけよう】
「友達から言われてうれしかった言葉」や「自分が友達に伝えることができたふわふわ言葉」をみんなで集めてきました。今回は「自分自身を励ましたり、受け入れたりする言葉を自分にかけることによって、心を安定させる方法を身に付けてほしい。」という願いから、自分を励ますことができた時に、ふわふわの実を掲示する活動に取り組みました。

【わたしの国のいいところ、紹介するよ】
自分の国の言葉を使って、クイズを作ったり作文を紹介したりする動画を作成し、みんなで視聴し合いました。ベトナム語、クメール語、中国語、ポルトガル語などを話すことができる友達を「うらやましいな。」と思いながらも「そうか…そんな苦労があったんだね。」と、友達の心にふれ、理解を深める大切な時間になりました。
日本の文化を見直す取り組みの一つとして、箸を正しく持って行うゲームにも親しみました。

「今、自分らしく安心して過ごせているか。」「ありのままの自分やいろいろな友達の個性を受け入れて、みんなで仲良く過ごせているか。」「みんなが幸せに暮らしていくためには、どのような考え方が大切なのか。」など、普段より多くの時間を「人権」について考える１週間になりました。
誰もが安心して、自分らしく生きることができる社会をめざして、未来を担う子どもたちの心が柔らかく耕されるための教育活動を今後も続けていきます。

皆様、よいお年をお迎えください。